

棋士の情景

～勝負の厳かでは、どんな時代も変わらない～

棋士・九段 島 朗

(第14話)

一つの道・両立の道

「人生はボクシングだけじゃない。ほかに心ひかれるものもあるだろう。でも、そうたくさんはないんだ」平成初期の衝撃的な米チャンピオンボクサー、マイク・タイソンを育てた名トレーナーの誉れ高いカス・ダマトの言葉です。一筋の道に打ち込んで育てている青年が別の道に興味をもちそうになったとき、そう論じたといえます。「俺は教えを乞う人間は必ずうまくさせる。ただ、人のやる気の面倒まで見る時間はないんだ」も、私の好きな言葉です。

昨夏の奨励会試験（棋士を目指す青少年の組織）は五十人前後の受験者だったと聞きました。ちょうど藤井聡太さんが彗星のごとく現れて、その頃将棋を始めた子たちの時間軸かとも思いますが、その多さに驚きました。

私も奨励会の弟子はおりますが、若手の頃だったら師匠自体を引き受けないことが多かったです。自分のことで手一杯というのもありましたが、棋士になるまでの奨励会生活が過酷であることと、またこれはあまり好きな言い方ではありませんが、棋士になるだけの努力量を他の資格取得の分野にあてれば、リターンはまずそちらの方が確実だからです。そう言っていました。自分を含め棋士の場合はほとんどが損得よりも、将棋が好きな一念でやってきたので、本人が目指しているときにそう言われても、たぶん心には響かないこともわかっていました。

ただ自分も変わりました。近年の社会状況で好きな道を目指す貴重な体験は人生、誰にでもできることではないですし、奨励会経

験を持ち別の道に進んで立派になっている青年もとても多くなり、私も頑なな面も薄れ、東北の子であれば応援できるなら後押ししたいと変わってきました。

いまは新しい生き方も模索される時代で、棋士になった後も別の道と両立させる二刀流思想が、若者の間では自然に考えられるようになってきています。確かにこうした勝負の世界では、上に立てる人間は限られているので、いろいろな生き方があってよいと思っています。

男性棋士と女流棋士では大きく過程が違いますが、福岡市在住で自分の一番弟子にあたる水町みゆ女流初段は、中学生の頃に女流棋士を目指しました。ご家族・本人と私の考え方が非常に近く、修業をしながら地元の修猷館高校（在学中に女流棋士に）～九州大学へ進み、地元の優良企業への就職も果たしました。女流棋士の対局は二年間休みましたが、社会人との二刀流を現在立派に務めています。本人の知力・能力の高さと芯の強さで、辛いときも弱音一つ吐かず目標を成し遂げてきたのは圧巻ですが、ご家族みな修猷館～九州大学ということで、それが自分の使命という強い心の持ち方も、ご家族の応援と共にあったことでしょう。

福岡を離れずに、というのも師匠としての希望キーワードでしたので、それもきちんと果たしてくれたのは弟子ながら凄すぎます。彼女の広い視野が、将来の女流棋界に役立つ日もきっとくるでしょう。いまの若者は本当に頼もしいです。